

平成18年度
北陸地方建設事業推進協議会
「建設技術報告会」
実施報告書

平成18年11月

北陸地方建設事業推進協議会
「建設技術報告会」実行委員会

- 目 次 -

1 . 開催概要	
1) 目的	1
2) 開催日時	1
3) 開催場所	1
4) 構成と報告時間	2
5) 報告技術のテーマ	2
6) 主催構成機関及び実行委員会構成員	3
7) 聴講者数	4
2 . 実施内容	
1) プログラム	6
2) 報告技術一覧	9
3) 開会式	10
4) 基調講演	10
5) 技術報告	10
6) 閉会式	10
7) パネル展示コーナー	11
3 . 準備及び運営・設営	
1) スケジュール	12
2) 主な経緯	12
3) 運営体制	13
4) 会場設営	14
4 . 広報	
1) 広報活動	18
2) 広報掲載状況	18
5 . アンケート	
1) 設問内容	23
2) 配布・回収	23
3) アンケート結果概要	24
4) 設問別集計結果	26
6 . 開催状況写真集	
1) 開閉会・基調講演	34
2) 技術報告	35
3) その他開催状況	38

1 . 開催概要

1) 目的

「建設技術報告会」は、北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁及び民間の建設会社において、新たに研究開発された新技術、新工法を報告することにより、研究開発技術の活用・普及を図ることを目的に開催されました。

本報告会は、平成7年度より、ほぼ毎年開催され今回で11回目の開催となりました。

2) 開催日時

平成18年10月24日(火) 9時00分～16時50分

受付 9時00分～ 2階ロビー(多目的ホール出入口前)

開会式 9時30分～9時40分 2階多目的ホール
開会挨拶 北陸地方整備局 企画部長 橋場克司

基調講演 9時40分～10時20分 2階多目的ホール
演 題 「地球温暖化による気候の変化」
講 演 者 新潟地方気象台 防災業務課 調査官 矢澤 易 氏

技術報告 { 10時40分～16時30分 2階多目的ホール(第1会場)
10時40分～16時30分 4階大研修室(第2会場)
10時40分～16時10分 5階中研修室(第3会場)

閉会式 16時40分～16時50分 2階多目的ホール
総評、閉会挨拶 平成18年度「建設技術報告会」実行委員長 平田 五男
(北陸地方整備局 北陸技術事務所長)

3) 開催場所

使用施設

新潟ユニゾンプラザ

住所：〒950-0944 新潟市上所2-2-2

電話：025-281-5511

施設専用駐車場完備(無料・約220台)

本会場は平成13、16年度に引き続き、3回目の会場である。

使用会場

開閉会式・基調講演・・・2階多目的ホール：聴講者420席

第1会場・・・2階多目的ホール：聴講者420席

第2会場・・・4階大研修室：聴講者180席

第3会場・・・5階中研修室：聴講者70席

パネル展示コーナー・・・2階県民サロン 16技術

パネル展示は、発表者より希望のあった報告技術のパネルを展示した。

事務局控室・・・4階小研修室3

来賓控室・・・4階小研修室4



会場施設位置図

《交通アクセス》

バス利用：

- 新潟駅万代口から
- ・水島町経由「県庁」または「西部営業所」行き
「上所島」下車、徒歩1分
- ・昭和大橋経由「入船町」行き、
「南高校前」下車、徒歩10分
- 新潟駅南口から
- ・中央環状線「県庁」行き
「中央市場入口」下車、徒歩7分
- ・昭和大橋経由「古町」行き
「南高校前」下車、徒歩10分
- 万代シティバスセンターから
- ・水島町経由「鳥屋野経由首野木コープ」行き、
または「酒屋」行き
「上所島」下車、徒歩1分

自家用車利用：

- 新潟駅から県庁方面へ10分
- 新潟バイパス女池ICから10分
- 新潟バイパス桜木ICから10分

4) 構成と報告時間

基調講演と技術報告会の2部構成とし、技術報告会は3会場の分科会方式をとり、1課題20分の発表を行い、4または5課題毎に10分間の質疑・応答を行った。

5) 報告技術のテーマ

北陸地方の建設技術の基本課題のテーマ(5テーマ)に「その他」を含めた6テーマの分類により、合計38題の技術報告を行った。

雪に強い地域づくり
(克雪対策、冬期道路交通安全確保に関する新技術・新工法)

良いものを安く
(コスト縮減、省力化に関する新技術・新工法)

自然災害からの安全確保
(危機管理、土石流などの防災に関する新技術・新工法)

環境の保全と創造
(建設副産物、リサイクルに関する新技術・新工法)

ゆとりと福祉
(情報化、バリアフリーなどに関する新技術・新工法)

その他
(上記のテーマ ~ に属さない新技術・新工法)

テーマ別 報告技術数

テーマ	報告技術
雪に強い地域づくり	5
良いものを安く	11
自然災害からの安全確保	6
環境の保全と創造	10
ゆとりと福祉	1
その他	5
計	38

6) 主催構成機関及び実行委員会構成員

「北陸地方建設事業推進協議会」を母体とし、開催目的に賛同する下記の機関・団体で組織した平成18年度「建設技術報告会」実行委員会(委員長:北陸地方整備局北陸技術事務所長)の主催により開催した。

主催構成機関

北陸地方整備局 / 新潟県 / 富山県 / 石川県 / 東日本高速道路(株)新潟支社
 中日本高速道路(株)金沢支社 / (社)日本土木工業協会北陸支部
 (社)日本道路建設業協会北陸支部 / (社)建設コンサルタンツ協会北陸支部
 (社)日本建設機械化協会北陸支部 / (社)新潟県建設業協会 / (社)富山県建設業協会
 (社)石川県建設業協会 / 北陸土木コンクリート製品技術協会
 (社)プレストレスト・コンクリート建設業協会北陸支部 / 北陸PC防雪技術協会
 新潟県融雪技術協会 / (財)新潟県建設技術センター / 北陸地質調査業協会
 (社)日本埋立浚渫協会北陸支部 / (社)北陸建設弘済会

平成18年度「建設技術報告会」実行委員会 構成員

	所 属	役 職	氏 名	(前任者)
委 員 長	北陸地方整備局 北陸技術事務所	事務所長	平田 五男	
副 委 員 長	北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所	事務所長	吉永 宙司	高野 誠紀
委 員	北陸地方整備局 企画部 施工企画課	課 長	宮村 兵衛	
"	北陸地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課	課 長	松本 佑二	
委員・会計監査	新潟県 土木部 技術管理課	土木工事検査監	吉田 弘	
委 員	富山県 土木部 建設技術企画課	技術指導係長	吉岡 浩二	
"	石川県 土木部 技術管理課	担当課長	八代 英一	
"	東日本高速道路(株) 新潟支局 企画調整グループ	サブリーダー	松田 豊	中沢 寿幸
"	中日本高速道路(株) 金沢支社 企画調整チーム	サブリーダー	山田 耕一	
"	(社)日本土木工業協会 北陸支部	副幹事	小林 哲男	
"	(社)日本道路建設業協会 北陸支部	幹事長	天尾 雅実	
"	(社)建設コンサルタンツ協会 北陸支部	広報委員長	青木 和之	
"	(社)日本建設機械化協会 北陸支部	普及部会委員	榎 紀洋	
"	(社)新潟県建設業協会	契約制度室長	圓山文史朗	
"	(社)富山県建設業協会	常務理事	木田 昭司	
"	(社)石川県建設業協会	常務理事	金谷 進	
"	北陸土木コンクリート製品技術協会	技術開発部会委員長	五十嵐正之	
"	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会 北陸支部	事務局長	滝沢 俊次	
"	北陸PC防雪技術協会	事務局長	村田 佳久	
"	新潟県融雪技術協会	技術委員長	池野 正志	
"	(財)新潟県建設技術センター	業務部長	菊池 潔	
"	北陸地質調査業協会	事務局長	小松 正義	
"	(社)日本埋立浚渫協会 北陸支部	技術委員長	藤原 聖記	
"	(社)北陸建設弘済会	事業調査室長	大林 厚次	内山 宏文

注) 1. 実行委員会構成員は、平成18年11月1日現在である。

2. 前任者は平成18年4月25日(第1回実行委員会)以降の異動者である。

「東日本高速道路(株)新潟支局」は、平成18年7月1日より「東日本高速道路(株)新潟支局」に名称を変更。

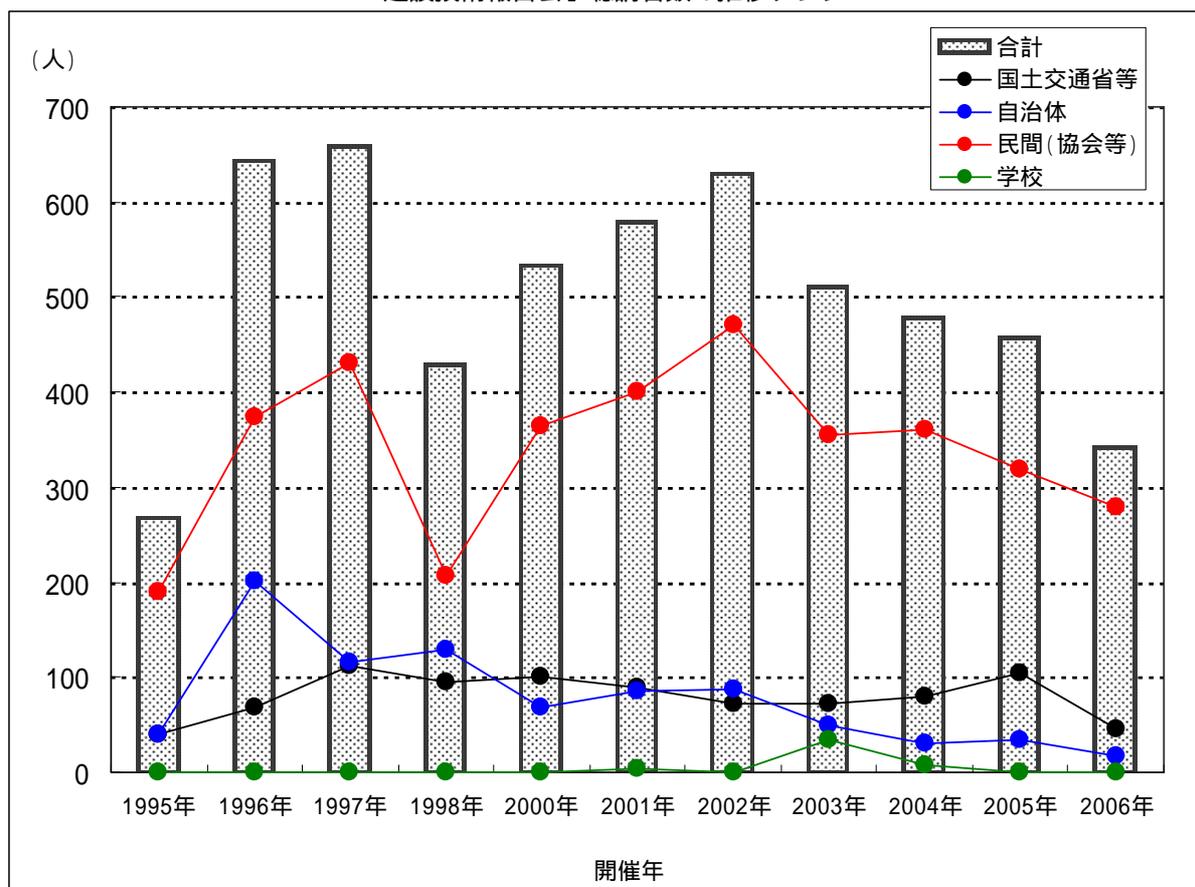
7) 聴講者数

本報告会の聴講申込人数及び聴講実績人数は下表のとおりである。

平成 18 年度「建設技術報告会」 聴講者集計表

機関・団体名		聴講申込	聴講実績
国土交通省	北陸地方整備局	76	34
	他地方整備局	10	10
その他省庁・公団等		0	0
主催自治体	新潟県	15	12
	新潟県内市町村	4	3
	富山県	1	1
	富山県内市町村	0	0
	石川県	2	2
	石川県内市町村	0	0
その他自治体	長野県	0	0
	福島県	0	0
	山形県	0	0
東日本高速道路㈱(主催)	新潟支社	1	1
中日本高速道路㈱(主催)	金沢支社	0	0
小計		109	63
主催協会・団体	(社)日本土木工業協会	52	42
	(社)日本道路建設業協会	45	31
	(社)建設コンサルタンツ協会	9	6
	(社)日本建設機械化協会	17	16
	(社)新潟県建設業協会	32	18
	(社)富山県建設業協会	0	1
	(社)石川県建設業協会	6	3
	北陸土木コンクリート製品技術協会	0	0
	(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会	7	6
	北陸P C防雪技術協会	4	1
	新潟県融雪技術協会	1	1
	(財)新潟県建設技術センター	4	3
	北陸地質調査業協会	9	8
	(社)日本埋立浚渫協会	13	7
	(社)北陸建設弘済会	6	5
	小計		205
その他協会・団体	(社)日本測量協会	0	0
	(社)建設電気技術協会	4	2
	(財)先端建設技術センター	2	2
	(財)河川情報センター	0	0
	(社)雪センター 北陸支部	1	0
	(財)道路保全技術センター	6	4
	(財)ダム技術センター	0	0
	(財)ダム水源池環境整備センター	0	0
	(財)リバーフロント整備センター	0	0
	(財)砂防地すべり技術センター	0	0
	(財)日本建設情報総合センター	1	1
	(財)経済調査会 北陸支部	0	0
	(財)国土開発研究センター	0	0
	(中)全国コンクリート製品協会	0	0
	北陸構造物維持補修技術研究会	0	0
	一般 加入協会不明を含む。	82	81
小計		96	90
学校		0	0
報道		0	2
発表者		38	38
小計		38	40
(官 公 庁 合 計)		109	63
(民 間 合 計)		339	278
合計		448	341

「建設技術報告会」聴講者数の推移グラフ



「建設技術報告会」聴講者数 (第1回～第11回)

開催年 内訳	1995年	1996年	1997年	1998年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
国土交通省等	39	68	112	94	100	89	72	72	80	105	45
自治体	39	202	116	129	69	86	87	50	31	34	18
民間(協会等)	189	373	430	206	364	401	471	354	360	319	278
学校	0	0	0	0	0	3	0	35	7	0	0
合計	267	643	658	429	533	579	630	511	478	458	341
開催地	新潟市	富山市	新潟市	金沢市	新潟市	新潟市	富山市	新潟市	新潟市	金沢市	新潟市

- 注) 1. 発表者及び報道関係者は、「民間(協会等)」に含む。
 2. 運営スタッフは、人数に含んでいない。
 3. 「自治体」には、市町村関係者を含む。
 4. 今回は、新潟・富山・石川県の市町村への聴講募集を行った。



2 . 実施内容

1) プログラム

以下のプログラムに沿って実施した。なお、本プログラムは報文集に掲載し、製本した。

「建設技術報告会」プログラム

= 第 1 会場 【 2 階 多目的ホール 】 =

開会式・基調講演	
9:30 ~ 9:40	開会式（開会挨拶） 北陸地方整備局 企画部長 橋場 克司
9:40 ~ 10:20	基調講演 新潟地方気象台 調査官 矢澤 易
第 1 会場 報告技術	
10:40 ~ 11:00	路面反射音による排水性舗装の排水機能評価手法の開発 本間 政幸 【北陸地方整備局 北陸技術事務所 機械課】
11:00 ~ 11:20	超高機能舗装について 岡本 信人 【日本道路㈱ 技術研究所 第二研究室】
11:20 ~ 11:40	交差点、鉄道横断アンダーパスの急速施工法（URUP工法） 井澤 昌佳 【㈱大林組 東京支社 土木技術本部 技術第五部】
11:40 ~ 12:00	北陸新幹線新黒部保守基地通路線高架橋へのS.Q.コンクリート構造の適用 清水 大輔 【前田建設工業㈱ 北海道支店 土木部】
12:00 ~ 12:10	ディスカッション（質疑応答）
12:10 ~ 13:00	休憩
13:00 ~ 13:20	新規橋梁（鋼橋）における無塗装仕様の海浜耐候性鋼材の採用事例について 沢村 直紀 【新潟県 新発田地域振興局 地域整備部 道路課】
13:20 ~ 13:40	プレキャストアーチ式高架橋「すいすいSWAN工法」の開発 小林 修 【戸田建設㈱ 本社 アーバンルネッサンス部】
13:40 ~ 14:00	回収型掘進機「やどかり君」の開発 畑山 栄一 【㈱奥村組 技術本部 土木部】
14:00 ~ 14:20	小断面ニューマチックケーソン工法対応 DREAM 型掘削機の開発 長崎 正幸 【大豊建設㈱ エンジニアリング本部 技術開発部 技術普及課】
14:20 ~ 14:30	ディスカッション（質疑応答）
14:30 ~ 14:40	休憩
14:40 ~ 15:00	地中熱利用システムについて 松浦 和也 【鉄建建設㈱ 技術センター】
15:00 ~ 15:20	半たわみ性凍結抑制舗装について 原 克也 【㈱植木組 本社 環境エンジニアリング部】
15:20 ~ 15:40	地熱利用ヒートパイプ融雪方式の施工と融雪効果 斎藤 貴典 【㈱興和 水工部】
15:40 ~ 16:00	ソイルセメント地中連続壁を利用した地中熱活用技術 川浦 栄太郎 【㈱本間組 土木本部 技術部】
16:00 ~ 16:20	PCシェッド点検判定要領（案） 若林 修 【北陸PC防雪技術協会（日本サミコン㈱）】
16:20 ~ 16:30	ディスカッション（質疑応答）
総評・閉会	
16:40 ~ 16:50	総評・閉会 北陸地方建設事業推進協議会「平成18年度 建設技術報告会」実行委員長 平田 五男 （北陸地方整備局 北陸技術事務所長）
技術報告テーマ： 雪に強い地域づくり、 良いものを安く、 自然災害からの安全確保、 環境の保全と創造、 ゆとりと福祉、 その他	

= 第2会場【4階 大研修室】 =

第2会場 報告技術

10:40 ~ 11:00	イソイル緑化工法の開発 田巻 尚 [小柳建設(株) 営業部]
11:00 ~ 11:20	天然重曹を用いた除草・抑草システム 藤井 政人 [福田道路(株) 技術研究所]
11:20 ~ 11:40	環境に配慮した回転貫入鋼管杭工法(その2) - エコロックパイルの品質について - 窪田 敬昭 [鹿島道路(株) EP事業部]
11:40 ~ 12:00	ボンテラン工法 長部 孝彦 [八千代エンジニアリング(株)]
12:00 ~ 12:10	ディスカッション(質疑応答)
12:10 ~ 13:00	休憩
13:00 ~ 13:20	風力発電システムによる環境の保全と創造 小泉 澄夫 [ユーシン建設(株)]
13:20 ~ 13:40	ハイブリッドショベルの開発 鹿見島 昌之 [コベルコ建機(株) 要素開発部]
13:40 ~ 14:00	振動軽減型舗装の開発 山脇 宏成 [株ガイアート T.K 技術研究所]
14:00 ~ 14:20	重金属不溶化下水汚泥焼却灰入りアスファルト混合物について 大矢 昌樹 [株金沢舗道 生産部]
14:20 ~ 14:30	ディスカッション(質疑応答)
14:30 ~ 14:40	休憩
14:40 ~ 15:00	再生骨材を用いた保水性舗装の適用事例 高畑 浩二 [株NI PPOコーポレーション 北信越支店 試験所]
15:00 ~ 15:20	河川災害復旧工事等における「Hi-OSS」事例の紹介 三国 大輔 [日立建機(株) 東日本事業部 CS営業部]
15:20 ~ 15:40	井戸掘削工事における凝集剤を用いた泥水処理の低減方法 北 弘司 [株ホクコク地水 工務部]
15:40 ~ 16:00	表面改質材によるコンクリート構造物の延命化 宇野 洋志城 [佐藤工業(株) 本社 技術研究所]
16:00 ~ 16:20	CSM(カッターソイルミキシング)工法 増田 浩二 [株間組 土木事業本部 技術第一部]
16:20 ~ 16:30	ディスカッション(質疑応答)
技術報告テーマ： 雪に強い地域づくり、 良いものを安く、 自然災害からの安全確保、 環境の保全と創造、 ゆとりと福祉、 その他	

= 第3会場【5階 中研修室】 =

第3会場 報告技術

10:40 ~ 11:00	長岡工業高等専門学校の震災復旧工事 野口 英幸 〔大成建設(株) 北信越支店 長岡高専環境整備作業所〕
11:00 ~ 11:20	プレキャストブレースを用いた建築構造物の耐震補強 森山 毅子彦 〔オリエンタル建設(株)建築支店工務部〕
11:20 ~ 11:40	耐震ラップ工法(波形分割鋼板巻立て工法)の開発 大越 靖広 〔(株)熊谷組 土木事業本部土木設計部〕
11:40 ~ 12:00	中越地震により被災したアースダムの復旧実績(浅河原調整池復旧報告) 神戸 隆幸 〔鹿島建設(株) 土木管理本部 土木工務部 ダムグループ〕
12:00 ~ 12:10	ディスカッション(質疑応答)
12:10 ~ 13:00	休憩
13:00 ~ 13:20	急流河川用「侵食センサー」の開発 佐々木 博明 〔パシフィックコンサルタンツ(株)水工事業本部 河川部〕
13:20 ~ 13:40	シャッター付砂防えん堤構造に関する検討 青柳 泰夫 〔パシフィックコンサルタンツ(株)水工事業本部 防災部〕
13:40 ~ 14:00	苗吹付技術「ピオ・セル・ショット工法」の開発 出雲井 雄二郎 〔(株)大本組 技術本部技術開発部〕
14:00 ~ 14:20	低土被り区間の施工対策報告 山本 悟 〔西松建設(株) 北陸支店 松ノ木トンネル出張所〕
14:20 ~ 14:30	ディスカッション(質疑応答)
14:30 ~ 14:40	休憩
14:40 ~ 15:00	振動騒音に配慮した鋼管杭の打設 佐藤 裕一 〔(株)新潟藤田組 建設部〕
15:00 ~ 15:20	グレーチングストッパーSPの小型化と各種適用事例 中村 利明 〔丸運建設(株) 舗道部〕
15:20 ~ 15:40	交通渋滞等がドライバーに与えるストレス把握調査 白澤 晃 〔開発技建(株)〕
15:40 ~ 16:00	歩道用アスファルト系弾性舗装「ソフトウォーク」 青木 政樹 〔大成ロテック(株) 技術研究所〕
16:00 ~ 16:10	ディスカッション(質疑応答)
技術報告テーマ： 雪に強い地域づくり、 良いものを安く、 自然災害からの安全確保、 環境の保全と創造、 ゆとりと福祉、 その他	

2) 報告技術一覧

主催機関・団体別の報告技術は以下のとおりである。

報告技術一覧（機関・団体別）

機関・団体名	テーマ	報告技術名	所属・会社名
北陸地方整備局		路面反射音による排水性舗装の排水機能評価手法の開発	北陸地方整備局 北陸技術事務所
新潟県		新規橋梁（鋼橋）における無塗装仕様の海浜耐候性鋼材の採用事例について	新潟県 新発田地域振興局
(社)日本土木工業協会北陸支部		地中熱利用システムについて	鉄建建設㈱
		半たわみ性凍結抑制舗装について	㈱植木組
		交差点、鉄道横断アンダーパスの急速施工法（URUP工法）	㈱大林組
		北陸新幹線新黒部保守基地通線高架橋へのS・Q・コンクリート構造の適用	前田建設工業㈱
		プレキャストアーチ式高架橋「すいすいSIWAN工法」の開発	戸田建設㈱
		回収型掘進機「やどかり君」の開発	㈱奥村組
		小断面ニューマチックケーソン工法対応DREAM型掘削機の開発	大豊建設㈱
		表面改質材によるコンクリート構造物の延命化	佐藤工業㈱
		C S M（カッターソイルミキシング）工法	㈱間組
		長岡工業高等専門学校の震災復旧工事	大成建設㈱
		耐震ラップ工法（波形分割鋼板巻立て工法）の開発	㈱熊谷組
		中越地震により被災したアースダムの復旧実績（浅河原調整池復旧報告）	鹿島建設㈱
		低土被り区間の施工対策報告	西松建設㈱
(社)日本道路建設業協会北陸支部		超高機能舗装について	日本道路㈱
		天然重曹を用いた除草・抑草システム	福田道路㈱
		環境に配慮した回転貫入鋼管杭工法(その2) - エコロックパイルの品質について -	鹿島道路㈱
		振動軽減型舗装の開発	㈱ガイアートT.K
		重金属不溶化下水汚泥焼却入りアスファルト混合物について	㈱金沢舗道
		再生骨材を用いた保水性舗装の適用事例	㈱NIPPOコーポレーション
		歩道用アスファルト系弾性舗装「ソフトウォーク」	大成ロテック㈱
		グレーチングストッパーSPの小型化と各種適用事例	丸運建設㈱
(社)建設コンサルタンツ協会		急流河川用「侵食センサー」の開発	パシフィックコンサルタンツ㈱
		シャッター付砂防えん堤構造に関する検討	パシフィックコンサルタンツ㈱
		ボンテラン工法	八千代エンジニアリング㈱
		交通渋滞等がドライバーに与えるストレス把握調査	開発技建㈱
(社)日本建設機械化協会北陸支部		ハイブリッドショベルの開発	コベルコ建機㈱
		河川災害復旧工事等における「Hi-OSS」事例の紹介	日立建機㈱
(社)新潟県建設業協会		イソイル緑化工法の開発	小柳建設㈱
		振動騒音に配慮した鋼管杭の打設	㈱新潟藤田組
(社)富山県建設業協会		風力発電システムによる環境の保全と創造	ユーシン建設㈱
(社)プレストレストコンクリート建設業協会		プレキャストブレースを用いた建築構造物の耐震補強	オリエンタル建設㈱
北陸PC防雪技術協会		PCシェッド点検判定要領（案）	日本サミコン㈱
新潟県融雪技術協会		地熱利用ヒートパイプ融雪方式の施工と融雪効果	㈱興和
北陸地質調査業協会		井戸掘削工事における凝集剤を用いた泥水処理の低減方法	㈱ホクコク地水
(社)日本埋立浚渫協会北陸支部		ソイルセメント地中連続壁を利用した地中熱活用技術	㈱本間組
		苗吹付技術「ピオ・セル・ショット工法」の開発	㈱大本組
13機関		38技術	

3) 開会式

日時：平成 18 年 10 月 24 日（火） 9 時 30 分～9 時 40 分
会場：2 階多目的ホール
開会挨拶：北陸地方整備局 企画部長 橋場 克司
司会：北陸技術事務所 副所長 上杉 修二



4) 基調講演

日時：平成 18 年 10 月 24 日（火） 9 時 40 分～10 時 20 分
会場：2 階多目的ホール
演題：「地球温暖化による気候の変化」
講師：新潟地方気象台 防災業務課 調査官 矢澤 易 氏
司会：北陸技術事務所 副所長 上杉 修二



5) 技術報告

日時：平成 18 年 10 月 24 日（火）
会場：第 1 会場 2 階多目的ホール 10 時 40 分～16 時 30 分 (13 技術)
第 2 会場 4 階大研修室 10 時 40 分～16 時 30 分 (13 技術)
第 3 会場 5 階中研修室 10 時 40 分～16 時 10 分 (12 技術)
司会：第 1 会場 新潟国道事務所 副所長 八橋 義昭
(社) 日本土木工業協会 林 英輝
第 2 会場 信濃川下流河川事務所 副所長 横山 正一
(社) 日本道路建設業協会 伊藤 俊治
第 3 会場 新潟港湾空港技術調査事務所 副所長 坂井 秀雄
新潟県 技術管理課 土木工事検査監 吉田 弘



6) 閉会式

日時：平成 18 年 10 月 24 日（火） 16 時 40 分～16 時 50 分
会場：2 階多目的ホール
総評・閉会挨拶：「建設技術報告会」実行委員長 平田 五男
(北陸地方整備局 北陸技術事務所長)
司会：北陸技術事務所 副所長 上杉 修二



7) パネル展示コーナー

日時：平成 18 年 10 月 24 日（火） 9 時 00 分～16 時 50 分（会期中常設）

会場：2 階県民サロン

報告技術のパネル展示コーナーを併設した。

なお、パネル展示は展示希望を募り、展示希望のあった 16 技術を対象に行った。

パネル展示技術 一覧表

	テーマ	発表会場	報告技術名	会社名
1		第 1 会場	地中熱利用システムについて	鉄建建設(株)
2		第 1 会場	地熱利用ヒートパイプ融雪方式の施工と融雪効果	(株)興和
3		第 1 会場	ソイルセメント地中連続壁を利用した地中熱活用技術	(株)本間組
4		第 1 会場	交差点、鉄道横断アンダーパスの急速施工法 (URUP工法)	(株)大林組
5		第 1 会場	北陸新幹線新黒部保守基地通路線高架橋への S.Q.コンクリート構造の適用	前田建設工業(株)
6		第 1 会場	小断面ニューマチックケーソン工法対応 DREAM 型掘削機の開発	大豊建設(株)
7		第 3 会場	急流河川用「侵食センサー」の開発	パシフィックコンサルタンツ(株)
8		第 3 会場	シャッター付砂防えん堤構造に関する検討	パシフィックコンサルタンツ(株)
9		第 2 会場	イソイル緑化工法の開発	小柳建設(株)
10		第 2 会場	環境に配慮した回転貫入鋼管杭工法(その 2) - エコロックパイルの品質について -	鹿島道路(株)
11		第 2 会場	ボンテラン工法	八千代エンジニアリング(株)
12		第 2 会場	風力発電システムによる環境の保全と創造	ユーシン建設(株)
13		第 2 会場	重金属不溶化下水汚泥焼却灰入り アスファルト合材混合物について	(株)金沢舗道
14		第 3 会場	歩道用アスファルト系弾性舗装「ソフトウォーク」	大成ロテック(株)
15		第 3 会場	苗吹付技術「ピオ・セル・ショット工法」の開発	(株)大本組
16		第 3 会場	グレーチングストッパー S P の小型化と各種適用事例	丸運建設(株)



3) 運営体制

報告会当日は、主催構成機関・団体からの運営スタッフ 35 名（官：17 名、民：18 名）の協力により実施された。

運営体制表

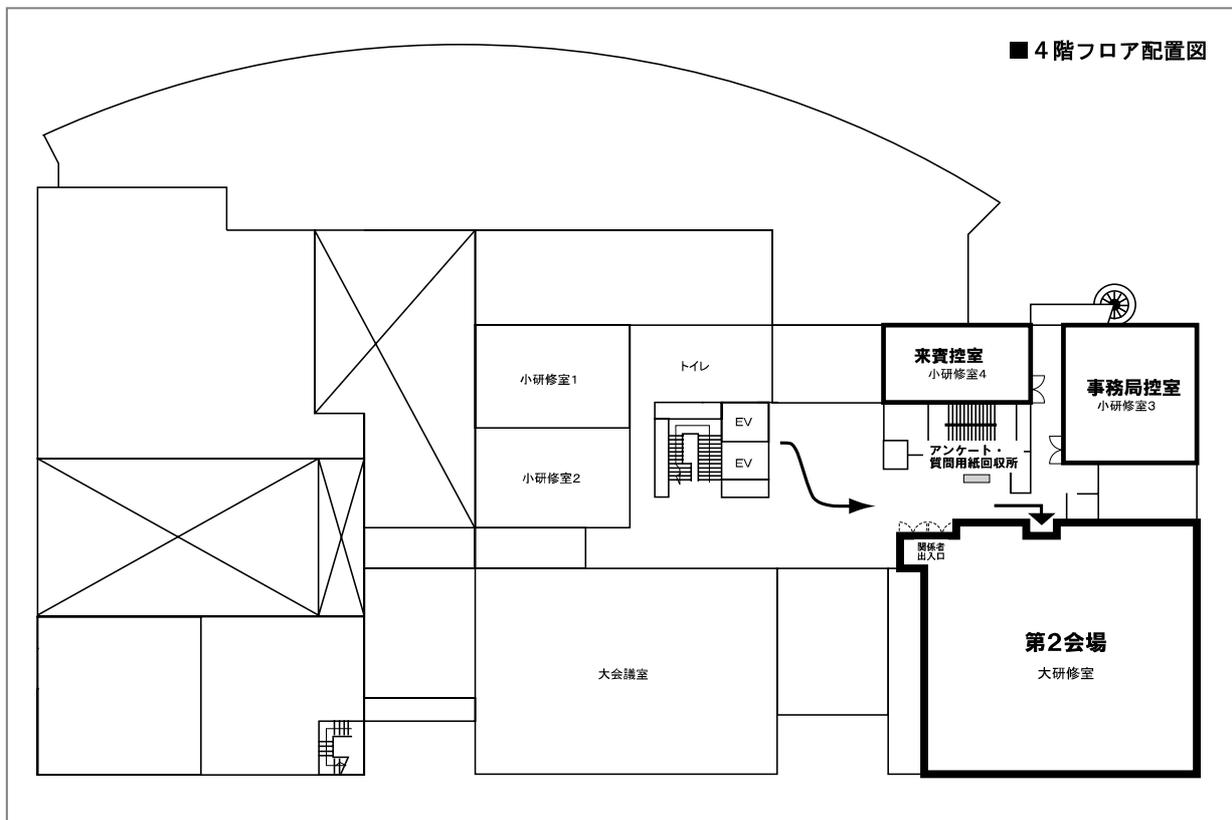
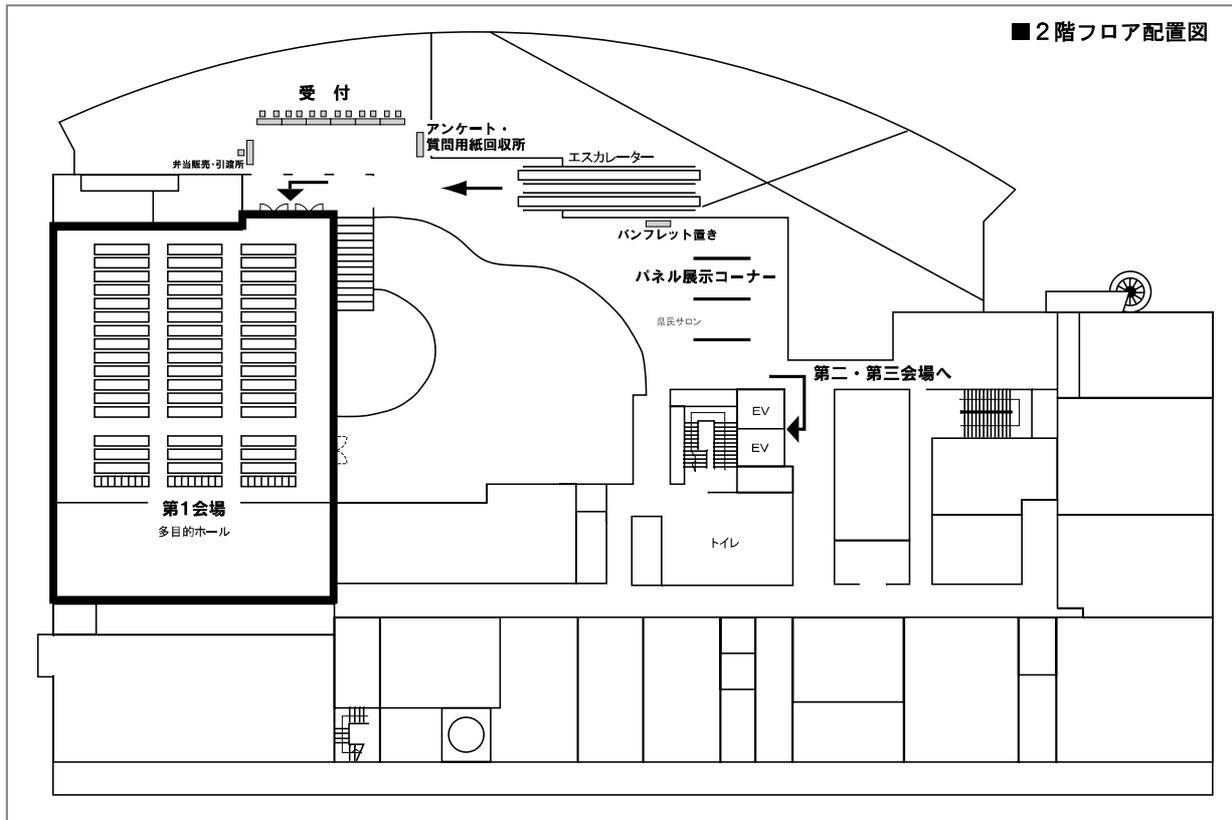
役 割		運営スタッフ 人 数		北陸地方 整備局	新潟県	新潟県 建設業協会	日本土工 工業協会	日本道路 建設業協会	日本建設 機械化協会	日本理立 浚渫協会
受付係	受付開始～基調講演終了まで	12	12	1	3	2	2	2	2	
	基調講演終了～報告会終了まで		(3)	→ (1)			→ (1)	→ (1)		
技術報告	司 会 係	6	第一会場	2	1			1		
			第二会場	2	1			1		
			第三会場	2	1	1				
	時 間 管 理 係	3 (2)	第一会場	(1)		→ (1)				
			第二会場	(1)		→ (1)				
			第三会場	1	1					
	パソコン係	3 (1)	第一会場	1	1					
			第二会場	(1)		→ (1)				
			第三会場	1			1			
	マイク受渡し係	6 (4)	第一会場	(2)			→ (1)			→ (1)
			第二会場	(2)			→ (1)			→ (1)
			第三会場	2				1		2
	会 場 照 明 係	3 (2)	第一会場	(1)				→ (1)		
			第二会場	(1)					→ (1)	
			第三会場	1					1	
写 真 係	3	第一会場	1							1
		第二会場	1							1
		第三会場	1							1
事務局	司会係(開閉会・基調講演)	1	1	1						
	VIP案内係	1	1	1						
	マスコミ対応係	2	2	2						
	連絡調整係	1	1	1						
	接遇係(講師・来賓)	1	1	1						
	全体写真係(開催状況)	1	1	1						

注) 1.()は、受付係と兼務した運営スタッフの人数を示す。
印の「2」は、午前・午後での運営スタッフ交代による。

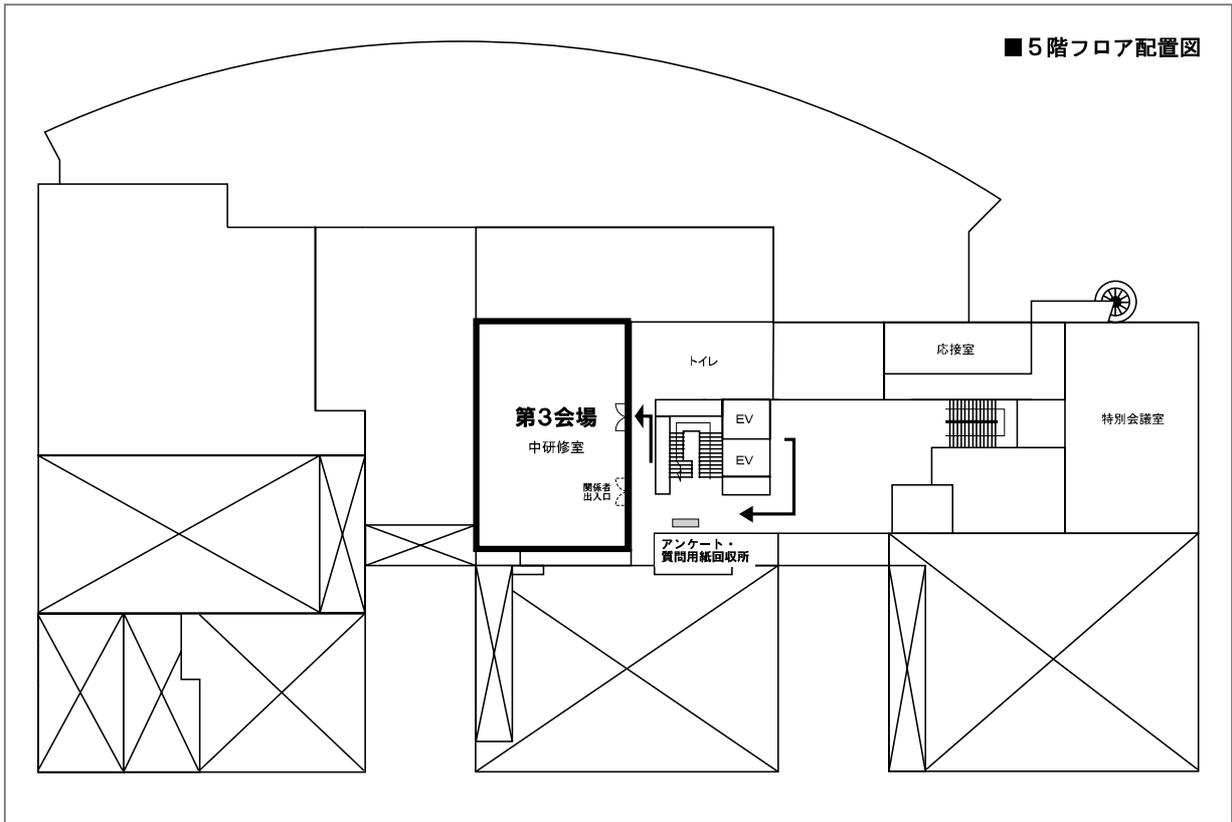


4) 会場設営

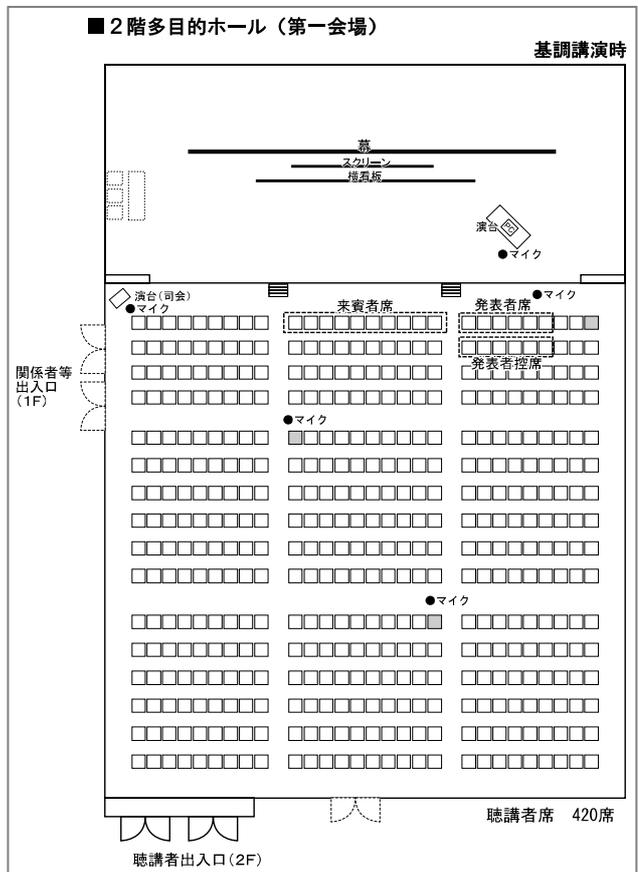
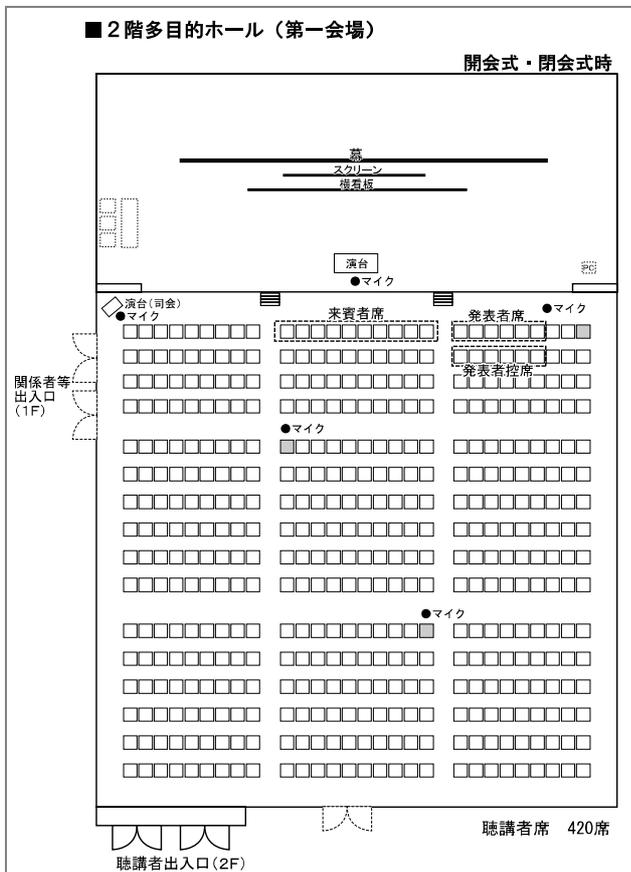
(1) 各フロア配置図

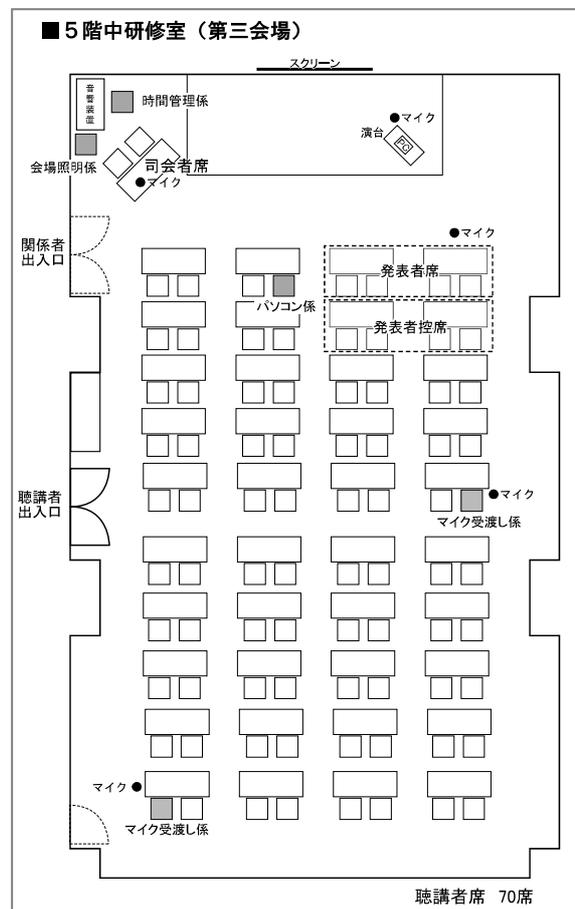
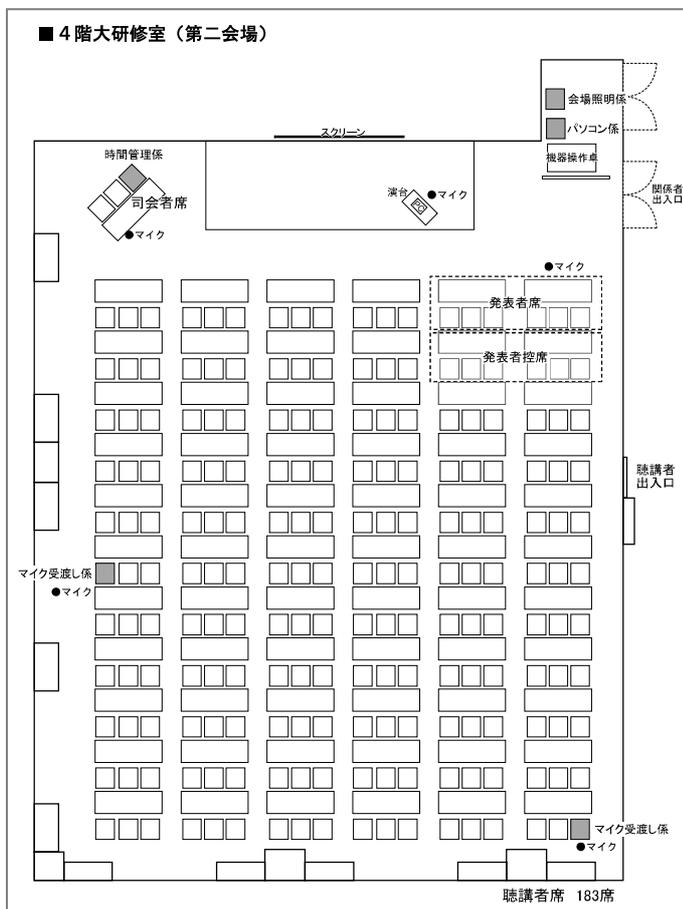
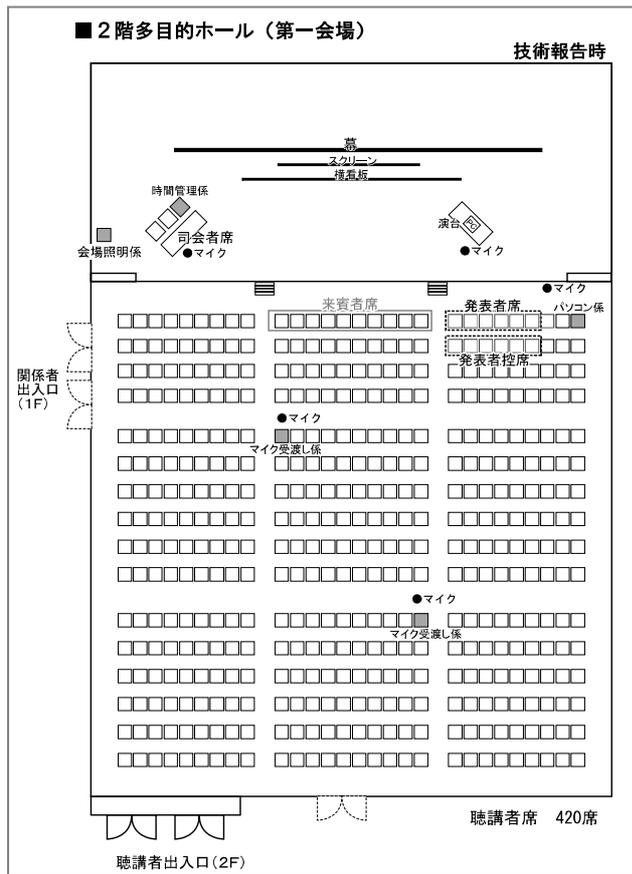


■ 5階フロア配置図

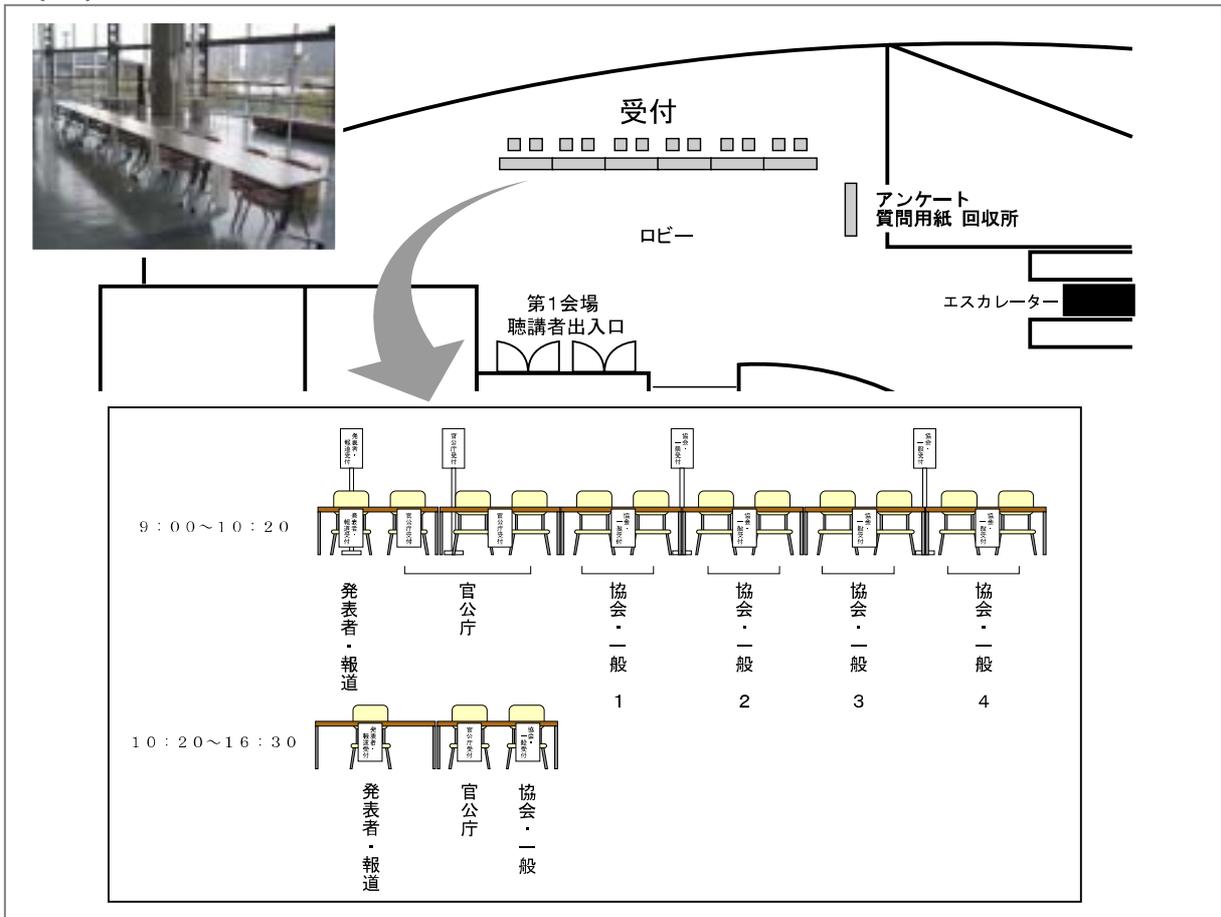


(2) 各会場配置図

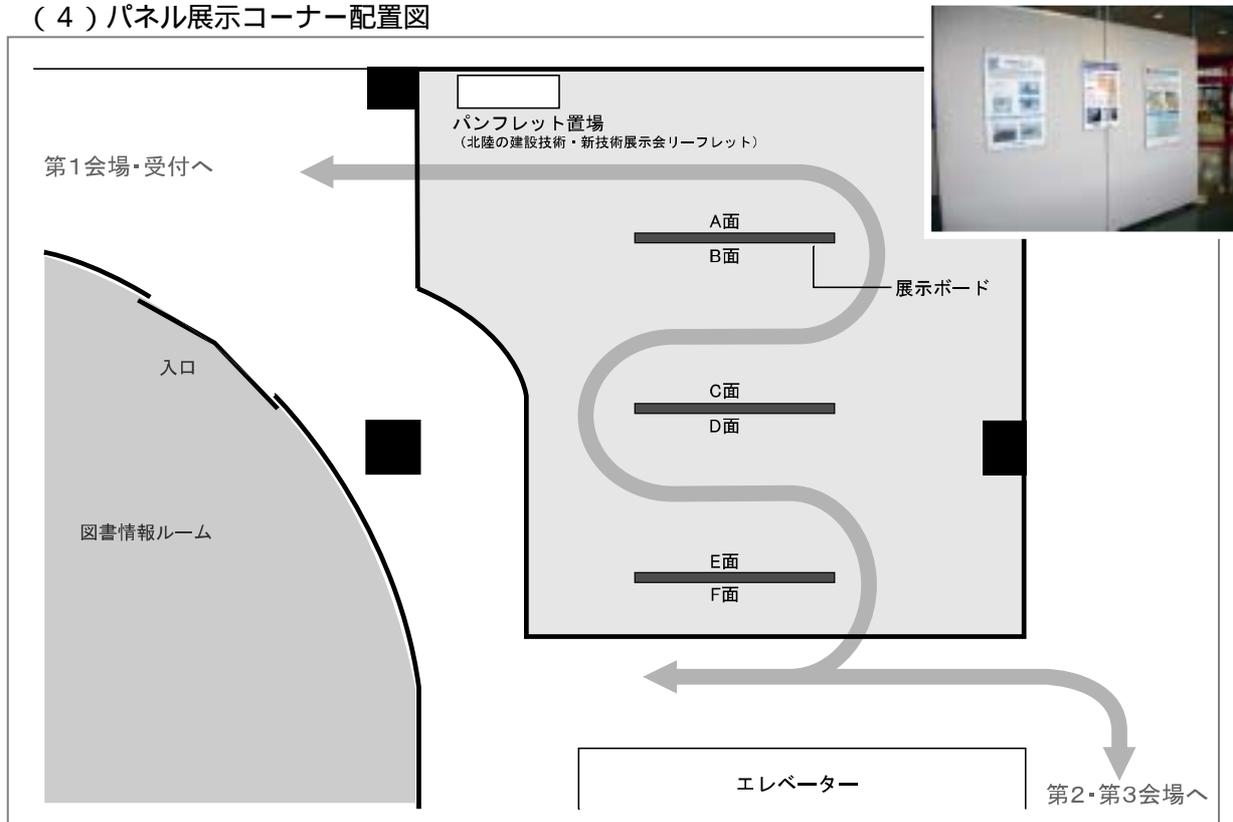




(3) 受付配置図



(4) パネル展示コーナー配置図



4 . 広報

1) 広報活動

種別・内容		方法	時期	摘要
チラシ配布	報告技術募集用 (紙・電子データ)	配布・募集	5月1日～	主催機関・団体
	聴講募集用 (紙・電子データ)		9月15日～	主催機関・団体、市町村 建設関係団体等
定期刊行誌	北陸の建設技術	掲載依頼	9月号	
	北技情報		6月号	
	ほっと*ほくりく		9月号、10月号	
記者クラブ	新潟県政記者クラブ	投げ込み	10月17日	チラシ 開催概要
	富山県政記者クラブ			
	石川県政記者クラブ			
	長野県政秘書室			
	福島県政記者クラブ			
	山形県政記者クラブ			
	岐阜県政記者クラブ			
	福井県政記者クラブ			
業界紙	日刊建設通信新聞社	投げ込み	10月17日	チラシ 開催概要
	日本工業経済新聞社			
	日刊建設工業新聞社			
	北陸建設工業新聞社			
	建設ジャーナル社			
	日刊建設産業新聞社			
ホームページ	北陸技術事務所	開設・運用	5月 8日～(報告技術募集)	
	各主催機関・団体		9月15日～(聴講募集) 適宜	

2) 広報掲載状況

(1) 新聞報道

掲載紙	発行機関	掲載月日
建設工業新聞	(株)北陸工業新聞社	平成18年10月25日(水)
建設通信新聞	(株)日刊建設通信新聞社	平成18年10月27日(金)

(2) 定期刊行誌

掲載誌	発行機関	掲載号
北陸の建設技術	北陸地方建設事業推進協議会	9月号
北技情報	国土交通省北陸技術事務所	6月号(vol.28)
ほっと*ほくりく	(社)北陸建設弘済会	9月号、10月号

(3) ホームページ

掲載機関	ホームページアドレス	掲載コンテンツ
国土交通省北陸技術事務所	http://www.hrr.mlit.go.jp/hokugi/	トップコンテンツ(バナー)
(社)日本建設機械化協会	http://www.jcmanet.or.jp/hokuriku/	試験・講習会等のお知らせ
(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会	http://www.pcken.or.jp/	お知らせ

北陸建設 建設技術報告会

事業推進協

新工法など38課題発表

北陸地方建設事業推進協議会（北陸地方整備局、新潟・富山・石川各県、建設関連団体）は、今年度から余工事で総合評価を実施し、新技術等の提案を受け、これを工事の落札体で構成した。24日、新潟市内で「建設技術報告会」を開き、官民で研究開発された新技術・新工法38課題の技術概要を発表した。

この日は官民から約370人が参加。国、橋本克司北陸地方整備局企画部長が「8月1日から、公共工事等における新技術活用システム（NITS）が本格運用、特に事後評価を中心に行っている。ぜひ利用を」と呼び掛け、「整備局は、

は、今年度から余工事で総合評価を実施し、新技術等の提案を受け、これを工事の落札体で構成した。24日、新潟市内で「建設技術報告会」を開き、官民で研究開発された新技術・新工法38課題の技術概要を発表した。

課題テーマは、①雪に強い地域づくり②良いものを安く③自然災害からの安全確保④環境の保全と創造⑤ゆとりと福祉⑥その他。担当技術者は、検証結果や成果を詳しく説明していた。



官民から約370人が参加した建設技術報告会 24日

新技術や工法 38課題を発表

建設技術報告会

北陸地方で開発された官民による建設の新技術や新工法を発表する建設技術報告会が、新潟市の新調ユニオンプラザで開かれ、新技術や新工法に関する38課題が発表された。写真。



国、北陸地方整備局の橋本克司企画部長は「国は、この8月から公共工事等における新技術活用システムの本格運用を開始した。総合評価方式でも新技術や新工法に活用できるしくみとなっている。この報告会で新しい技術情報を入手し、ぜひ現場で活用していただきたい」と話した。

新調地方気象台の矢津屋調査官による基調講演のあと、民間企業の38人（委員長・平田五男北陸建設事務所長）が主催している。新たに研究開発された新技術・新工法を発表し、その活用と普及を目的に、1995年度から開催している。

お知らせ

「平成18年度建設技術報告会」開催のお知らせ

平成18年度の「建設技術報告会」が以下のとおり開催されます。
本報告会は平成7年度から開催され今年で第12回となります。
北陸地方における建設事業の発展を促すため、近況及び今後の建設動向について、最先端の研究成果が発表され、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を促進することを目的と開催するものです。

開催日：平成18年10月24日
会 場：新潟エニジンプラザ
会 場：新潟市上野2-2-2
主 催：北陸地方建設事業推進協議会
「建設技術報告会」実行委員会

報告テーマ

- ・新しい基礎工法
- ・新工法を主眼
- ・最新技術の安全確保
- ・環境の保全と創出
- ・ゆとりと福祉
- ・その他

聴講申込

平成18年7月17日(月)から8月1日(金)まで「申込用紙」に氏名、所属(建設業/非建設業)をご記入の上、下記事務局までお申し込み下さい。「申込用紙」をご提出ください。
<http://www.hrr.mlit.go.jp/hokug/>
「建設技術報告会実行委員会」事務局(北陸地方建設事業推進協議会内)

INFORMATION

お知らせ

「平成18年度建設技術報告会」開催のお知らせ

平成18年度の「建設技術報告会」が以下のとおり開催されます。
本報告会は平成7年度から開催され今年で第12回となります。
北陸地方における建設事業の発展を促すため、近況及び今後の建設動向について、最先端の研究成果が発表され、新工法等を報告することにより、研究開発技術の普及を促進することを目的と開催するものです。

開催日：平成18年10月24日(火)
会 場：新潟エニジンプラザ
会 場：新潟市上野2-2-2
主 催：北陸地方建設事業推進協議会
「建設技術報告会」実行委員会

報告テーマ

- ・新しい基礎工法
- ・新工法を主眼
- ・最新技術の安全確保
- ・環境の保全と創出
- ・ゆとりと福祉
- ・その他

聴講申込

平成18年7月17日(月)から8月1日(金)まで「申込用紙」に氏名、所属(建設業/非建設業)をご記入の上、下記事務局までお申し込み下さい。「申込用紙」をご提出ください。
<http://www.hrr.mlit.go.jp/hokug/>
「建設技術報告会実行委員会」事務局(北陸地方建設事業推進協議会内)

伝言板*みんなの広場

建設技術者を対象に展示説明会と建設技術報告会を開催します
北陸技術事務所

52の新技术を一堂に展示「新技术展示説明会in北陸」 **入場無料**

新技术展示説明会in北陸は、北陸地方整備局で登録されたNETIS(新技术情報提供システム)技術だけを集め、建設技術者の皆さんならびに新技术の活用普及を目的で開催いたします。NETIS登録技術のみを対象とした展示は全国の地方整備局でも初めての試みです。行政、民間技術者の方々の多くのご参加をお待ちしています。

- 開催日/平成18年10月25日(水)・26日(木)
- 会 場/北陸技術事務所 県内寄設会場(〒950-1301 新潟市上野2310-5)
- 主 催/国土交通省北陸地方整備局
- 後 援/新潟県・富山県・石川県

建設分野の新技术・新工法を報告「平成18年度 建設技術報告会」 **聴講無料**

北陸の建設事業を円滑に推進するための官公庁および民間の建設会社で新たに研究開発された新技术、新工法などを報告します。なお、本報告会は研究開発技術の普及を図る事を目的に平成7年度から開催され今年で第12回となります。

- 開催日/平成18年10月24日(火)
- 会 場/新潟エニジンプラザ(〒950-0244 新潟市上野2-2-2)
- 主 催/「平成18年度建設技術報告会」実行委員会

●問い合わせ先/北陸技術事務所(担当:小泉、山田)
TEL (025) 231-1281(代表) FAX (025) 231-1283
詳しくは北陸技術事務所ホームページをご覧ください
<http://www.hrr.mlit.go.jp/hokug/>

建設技術報告会 北陸技術事務所 **入場無料**

官公庁および民間の建設会社で新たに研究開発された建設技術の普及促進のため、それらを集めた報告会と展示会を新潟市内で開催します。建設分野に関わる方々をはじめ、多くの皆さんのご参加をお待ちしています。

建設分野の新技术・新工法を報告「平成18年度 建設技術報告会」

- 開催日/平成18年10月24日(火)
- 場 所/新潟市上野2-2-2 新潟エニジンプラザ
- 主 催/「平成18年度建設技術報告会」実行委員会

52の新技术を一堂に展示「新技术展示説明会in北陸」

- 開催日/平成18年10月25日(水)・26日(木)
- 場 所/新潟市上野2310-5 北陸技術事務所県内寄設会場
- 主 催/国土交通省北陸地方整備局

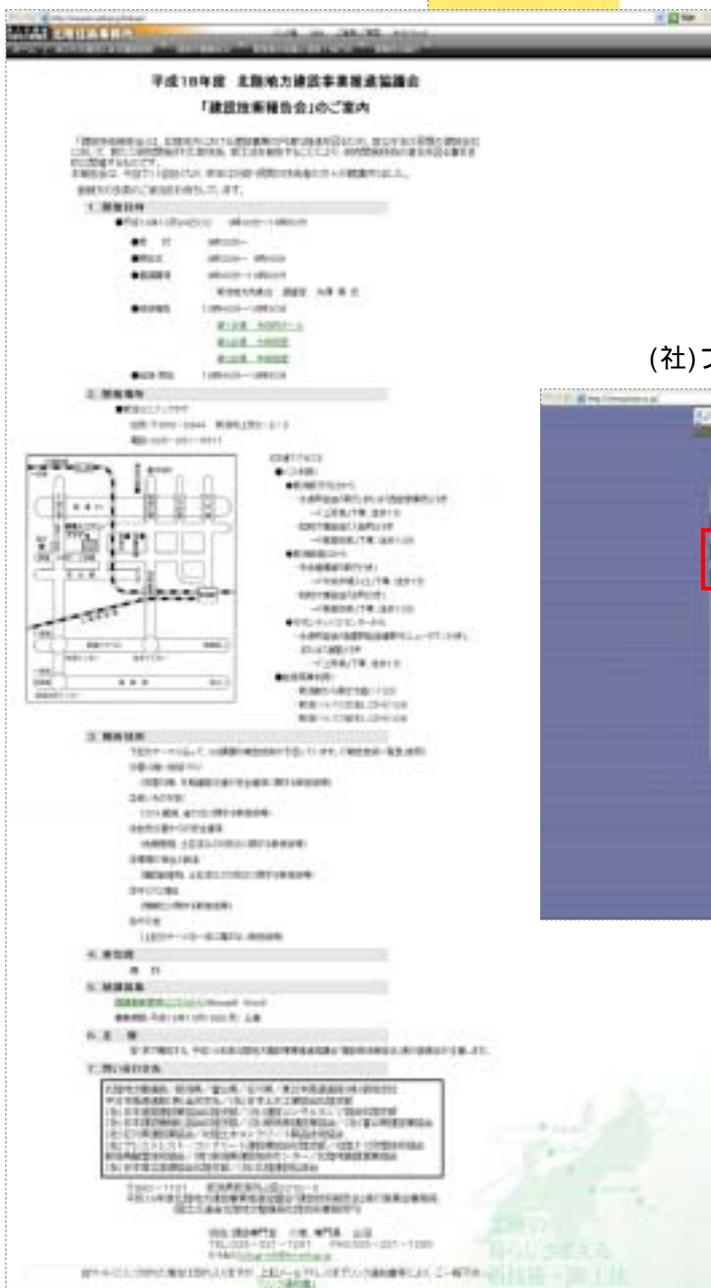
●問い合わせ先/北陸技術事務所(担当:小泉、山田)
TEL (025) 231-1281(代表) FAX (025) 231-1283
北陸技術事務所ホームページ
<http://www.hrr.mlit.go.jp/hokug/>

ホームページ

(社)日本建設機械化協会 北陸支部



国土交通省 北陸技術事務所



(社)プレストレスト・コンクリート建設業協会



広報・製作物等

チラシ A4判

(報告技術募集用)

(聴講者募集用)

平成18年度 建設分野の新技术・新工法の報告会

建設技術報告会

開催日 10/24[○]
平成18年
会場 新潟ユニソンプラザ
報告技術募集中

スケジュール

開会	多目的ホール【第1会場】
記念講演	多目的ホール【第1会場】
技術報告	多目的ホール【第1会場】 大ホール【第2会場】
閉会	多目的ホール【第1会場】

主催 北陸地方建設事業推進協議会
平成18年度建設技術報告会実行委員会

北陸の暮らしをささえる
新技术・新工法

平成18年度 建設分野の新技术・新工法の報告会

建設技術報告会

聴講者募集中

開催日: 10/24[○] 会場: 新潟ユニソンプラザ
〒951-8584 新潟県上越市上越

スケジュール

開会	9:30~9:40 【多目的ホール】
記念講演	9:40~10:20 【多目的ホール】 新潟地方創業社 創業者 矢澤 基 氏
技術報告	10:30~10:50 【多目的ホール・第一会場】 【大 会 場・第二会場】 【中 会 場・第三会場】
懇談・閉会	10:40~10:50 【多目的ホール】

主催 北陸地方建設事業推進協議会
平成18年度建設技術報告会実行委員会

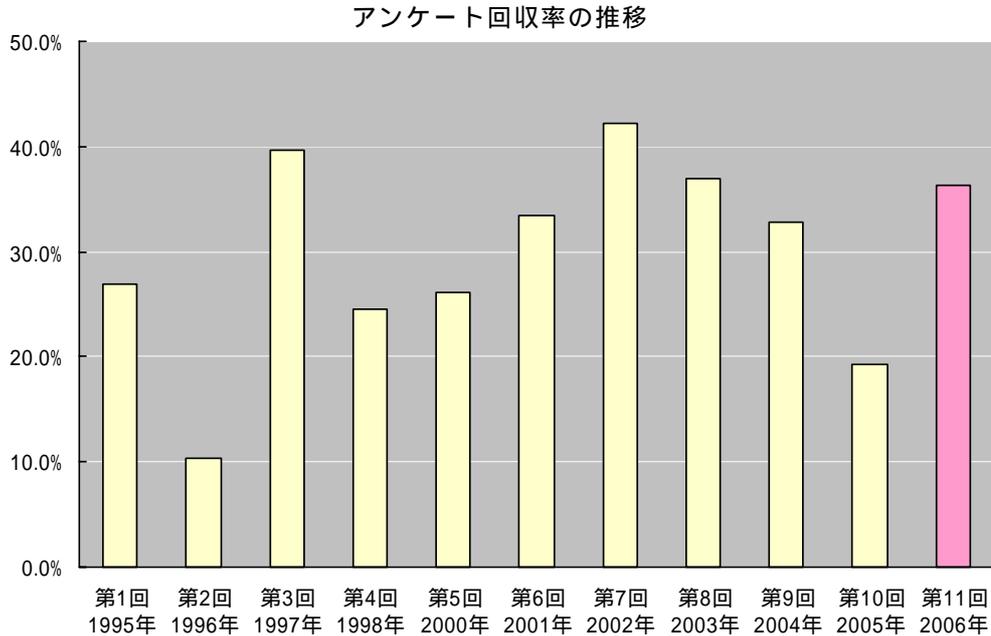
報文集 A4判(モノクロ) 166頁

平成18年度
建設技術報告会報文集

平成18年10月

北陸地方建設事業推進協議会
建設技術報告会実行委員会

本年度のアンケート調査の回収率は、過去4番目の回収率であった。
 (下図参照)



3) アンケート結果概要

聴講者の職業及び分野 (問1 及び 参照)

職種別では、官公庁が2割、民間企業が8割であった。

分野別では、道路分野に携わっている人が全体の約半分を占め、続いて河川が2割強であった。

聴講者の住所・勤務地等 (問1 参照)

開催地が新潟市であることから、新潟市内が全体の半分を占め、新潟市以外の新潟県内市町村が2割を示した。その他では、遠方にも関わらず、石川県からの聴講者が約1割を占めたが、これは、報告会翌日から開催された『新技術展示説明会 in 北陸』の石川県内企業の出展(5社)による要因も多分にあったと思われる。

新技術の導入及び分野 (問2 及び 参照)

全体の約9割弱の人が、必要性を感じており、新技術の関心の高さを示すものである。

また、必要性を感じる分野では、「環境の保全と創造」、「良いものを安く」を合わせて、全体の半分以上を占め、社会的背景などを象徴する環境問題やコスト縮減などの技術開発が必要と考えていることが推測される。

新技術導入の障害 (問2 参照)

全体の約4割弱が「積算体系等制度的なもの」、続いて「経費的なもの」が約3割を占めた。

全体の約1割の少数意見には、発注者側の実績重視・安値受注競争や導入意識・意欲の欠如を指摘する厳しい意見も上がっていた。

現場での採用や興味・関心の高かった技術（問3 参照）

報告技術者の開発意欲を促すために、本年度より新たに追加した設問である。

獲得票数の上位3技術は以下のとおりである。

『天然重曹を用いた除草・抑草システム』（福田道路株式会社）

『路面反射音による排水性舗装の排水機能評価手法』（北陸地方整備局 北陸技術事務所）

『ボンテラン工法』（八千代エンジニアリング株式会社）

なお、上位3技術については、総評・閉会時に実行委員長より発表した。

今後の報告会（問4 及び 参照）

今後も報告会の開催を続けた方が良いという意見が、全体の約9割を示し、「内容による」と答えた人が約1割であった。

内容によると答えた意見には、「求める技術発表が無い」、「鉄道関連技術」など、ごくわずかではあるが、本当に聴講したかった技術報告が無かったと思われる。

開催時期（問4 参照）

全体の75%の人が、今回の開催時期が良いと回答し、その他の時期では4月～6月の開催を望む意見が約1割あった。

開催地（問4 参照）

全体の約7割の人が、今回の開催地で良いと回答しているが、回答者の殆どが新潟市内または近郊からの聴講者であり、問1の の回答がそのまま反映された結果となった。これは、会場までの移動時間等を考慮すると地元開催を望む当然の結果であると思われる。

新潟・富山・石川で輪番の開催を望む回答が、約3割弱であった。

『けんせつフェア』等の開催場所にもよるが、基本的には輪番で開催している。

報告会形式や会場設営など（問5 参照）

質疑応答は、発表毎に行うことを望む意見があった。

会場の分散化により、聴講したい技術が聞けないため、発表課題を厳選し、会場数を減らす意見や会場間の移動が大変などの意見があった。

小規模工事の発表や他分野からの発表を望む意見があった。

喫煙場所が分かり難かったあるいは少なかったという意見があった。

その他（問6 参照）

聴講者が少ないことと発注者の参加が少ない意見が上がっていた。

公共交通機関の至便な会場を望む意見があった。

昼食販売の事前案内や昼食場所が少ないなどの意見が数件上がっていた。

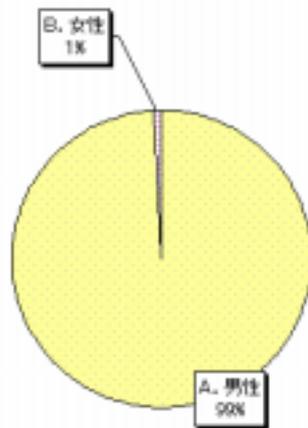
他の類似発表会との差別化を望む意見があった。

4) 設問別集計結果

各設問の集計結果は以下のとおりである。

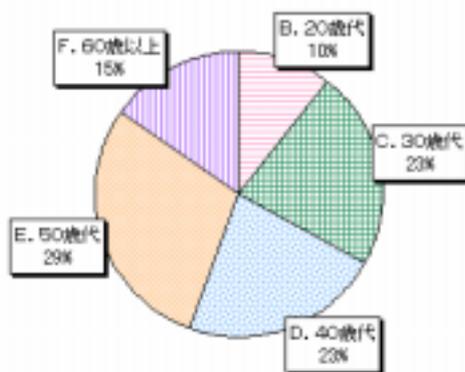
問 1

①あなたの性別は。



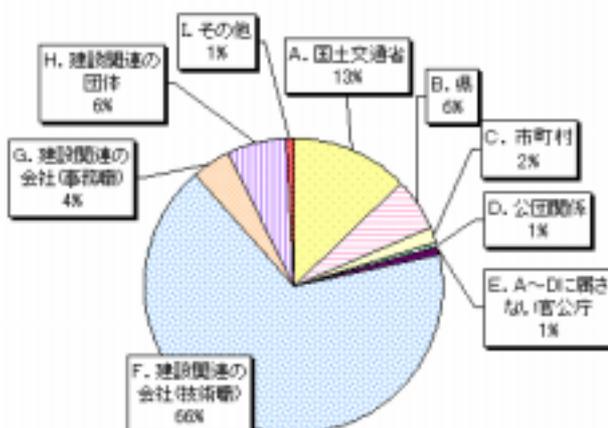
A. 男性	123
B. 女性	1
計	124

②あなたの年齢は。



A. 19歳以下	0
B. 20歳代	13
C. 30歳代	28
D. 40歳代	28
E. 50歳代	36
F. 60歳以上	19
計	124

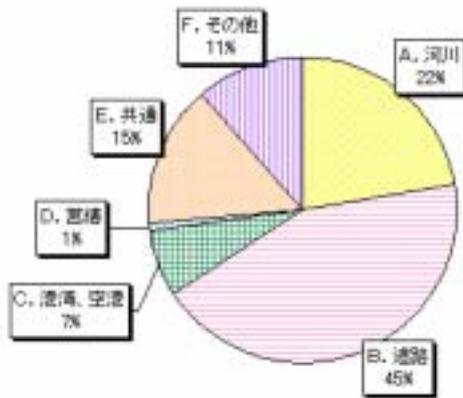
③あなたの職業・職種は。



A. 国土交通省	16
B. 県	7
C. 市町村	2
D. 公団関係	1
E. A～Dに属さない官公庁	1
F. 建設関連の会社(技術職)	63
G. 建設関連の会社(事務職)	5
H. 建設関連の団体	8
I. その他	1
計	124

その他
- 未記入(1)

4.あなたは主にどの分野のお仕事に携わっていますか。



A. 河川	31
B. 建設	61
C. 港湾、空港	10
D. 官庁	1
E. 共通	21
F. その他	18
計	140

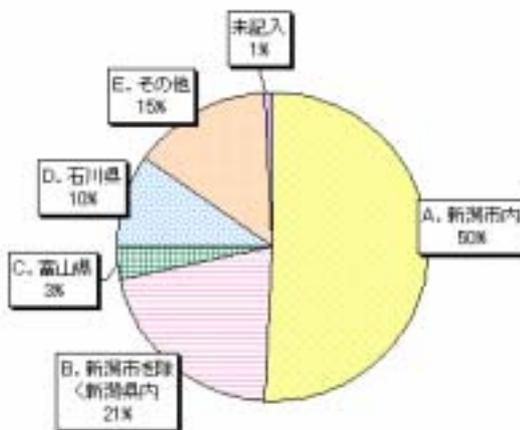
共通

- ・ 養蚕 (1)
- ・ 技術開発 (1)
- ・ 砂防 (1)
- ・ 法面 (2)
- ・ 環境技術 (1)
- ・ 河川道路 (1)
- ・ 橋梁 (1)
- ・ 土木全般 (1)
- ・ 防災 (1)
- ・ 未記入 (11)

その他

- ・ 上下水道・消雪 (1)
- ・ 地質調査 (1)
- ・ 工事検査 (1)
- ・ 災害復旧 (1)
- ・ 調査・さく井 (1)
- ・ トンネル (都市) (1)
- ・ レンタル (1)
- ・ 融雪 (1)
- ・ 富集 (1)
- ・ 各種 (1)
- ・ 鉄道 (1)
- ・ 維持 (1)
- ・ 未記入 (4)

5.どちらから来られましたか。



A. 新潟市内	63
B. 新潟市を除く新潟県内	26
C. 富山県	4
D. 石川県	12
E. その他	18
未記入	1
計	124

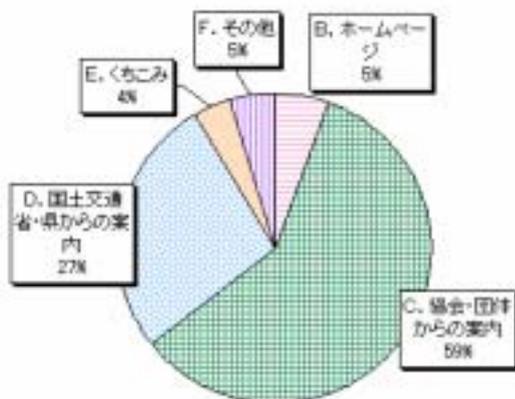
新潟市を除く新潟県内

- ・ 加茂市 (2)
- ・ 三条市 (1)
- ・ 上越市 (2)
- ・ 胎内市 (1)
- ・ 田上町 (1)
- ・ 佐渡市 (1)
- ・ 十日町市 (1)
- ・ 小千谷市 (2)
- ・ 長岡市 (3)
- ・ 未記入 (12)

その他

- ・ 北海道 (5)
- ・ 群馬県 (1)
- ・ 群馬県 (1)
- ・ 東京都 (5)
- ・ 岡山県 (1)
- ・ 山形県 (1)
- ・ 東京都 (1)
- ・ 埼玉県 (2)
- ・ 神奈川県 (1)

6.この報告会を何で知りましたか。



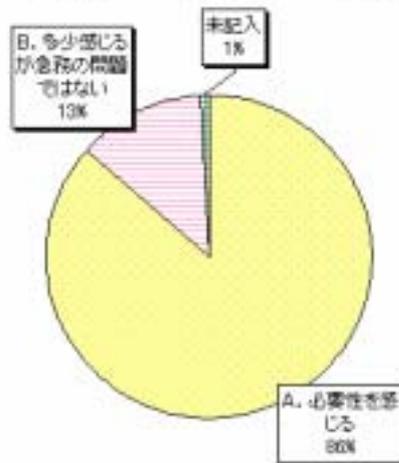
A. チラシ	0
B. ホームページ	7
C. 協会・団体からの案内	76
D. 国土交通省・県からの案内	35
E. くちこみ	5
F. その他	6
計	129

その他

- ・ 国土交通省・県からの案内 (1)
- ・ ほっと*ほく*りく (1)
- ・ 会社 (3)
- ・ 発表者から案内 (1)

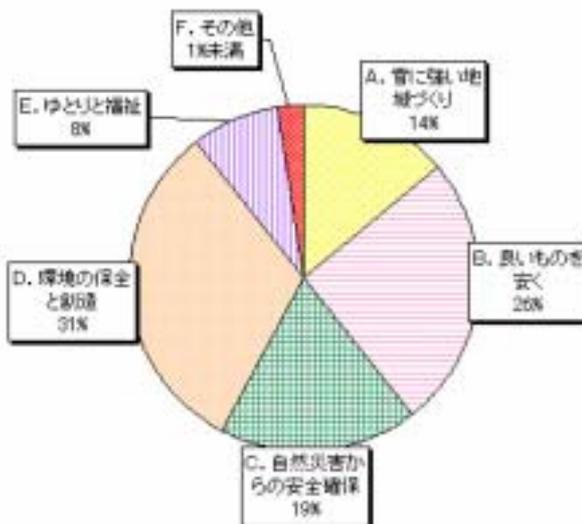
問 2

①建設事業への新技術導入の必要性についてどう思われますか。



A. 必要性を感じる	107
B. 多少感じるが急務の問題ではない	18
C. 特に問題意識はない	0
未記入	1
計	124

②上記①で「A. 必要性を感じる」または「B. 多少感じるが急務の問題ではない」に○を付けた方はどの分野に必要性を感じますか？（複数回答可）

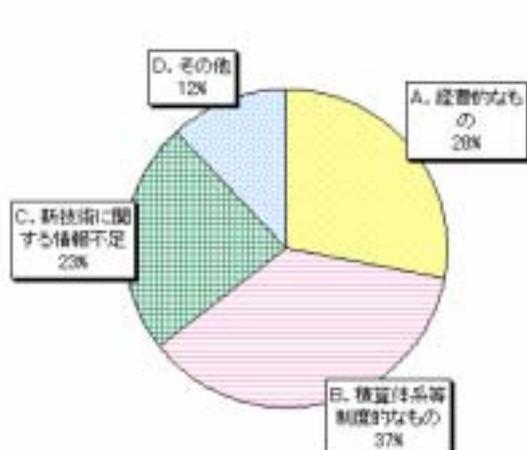


A. 雪に強い地盤づくり	35
B. 臭いものを安く	65
C. 自然災害からの安全確保	47
D. 障地の保全と創造	80
E. ゆとりと福祉	21
F. その他	6
計	254

その他

- ・まず臭いもの！費用を気にすると臭いものは出来ない（1）
- ・国際競争に勝てる技術（1）
- ・省資源（1）
- ・臭いものを高く（LCCを相安して発注して欲しい）（1）
- ・未記入（2）

③新技術導入の障害となっているものがあるとすれば、それは何ですか。（複数回答可能）



A. 経済的なもの	42
B. 積算体系等制度的なもの	54
C. 新技術に関する情報不足	35
D. その他	18
計	149

「D. その他」の内容

- ・工事発注者が導入に対する意識と意欲が薄く、実績が無いと採用され難い。責任を業者へ押し付けている。新技術等は甲、乙両方で育てるものではないでしょうか。（7）
- ・LCC、メンテナンスの方法、どれくらいもつのか（補修の時期）（1）
- ・官公庁のマニュアル頼り体質、慣例重視（1）
- ・公的機関では「安かるう良かるう」「実績重視」が強すぎる。新技術の開発は主に建設会社が行っている。現状の安値受注競争が続けば、開発費の縮小打ち切りが増えてくる。（1）
- ・行政の積極的なバックアップ、役人の1人1人まで。（1）
- ・在来工法との比較（施工性・経済性、検討資料の不足、耐久性等の資料）（1）
- ・取入れに対する積極性。（1）
- ・新技術に対応した根拠（現状の規格が新技術に対応できない）（1）
- ・新技術の信頼性。（1）
- ・設計基準、調達制度（1）
- ・特定の企業に収められてしまう（1）
- ・補助事業の場合は前例が無いと実施しづらい。他の技術（工法）との比較が難しく評価が分かれる（1）

問3

今回の報告金を聴講して、特に現場で採用してみたい技術や興味を持った技術及び関心の高かった技術を3題選んでご記入下さい。

※全体票数で169票の回答があり、獲得票数の上位3技術は下記のとおりである。

第1位・・・15票(8.9%)

『天然重曹を用いた除草・抑草システム』

（福田道路株式会社）

第2位・・・11票(6.5%)

『路面反射音による排水性舗装の排水機能評価手法の開発』

（北陸地方整備局北陸技術事務所）

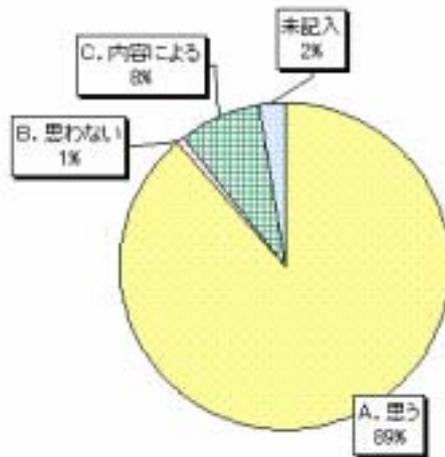
第3位・・・10票(5.9%)

『ボンテラン工法』

（八千代エンジニアリング株式会社）

問 4

① 今後もこの報告会があった方が良くと思いますか。



A. 思う	110
B. 思わない	1
C. 内容による	10
未記入	3
計	124

② 上記①で「B. 思わない」に○をされた方はその理由を、「C. 内容による」に○を付けた方はどのような内容を望まれますか？

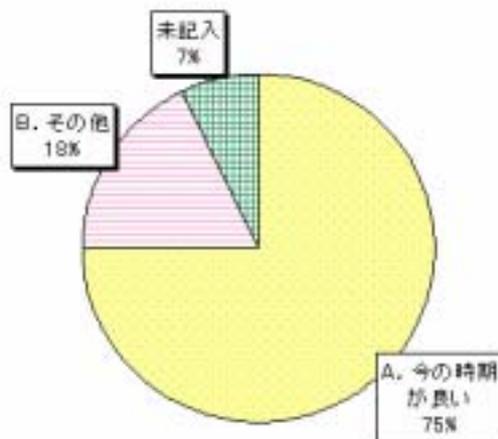
■ 「B. 思わない」に○を付けた方

- ・同じような報告会や研修が多いので合併すべき、経費の無駄（1）

■ 「C. 内容による」に○を付けた方

- ・テーマ別の報告は良いが技術種別にすべき（1）
- ・求める技術発表が無い場合がある（1）
- ・結論や効果がでていない内容は必要だが、途中報告や方向性が出ていない技術はいろいろ。（1）
- ・社会時代の流れを反映しているもの（1）
- ・鉄道との関連（1）
- ・道路に関するもの、舗装に関するもの（1）
- ・未記入（4）

③ 開催時期はいつが良いと思いますか。

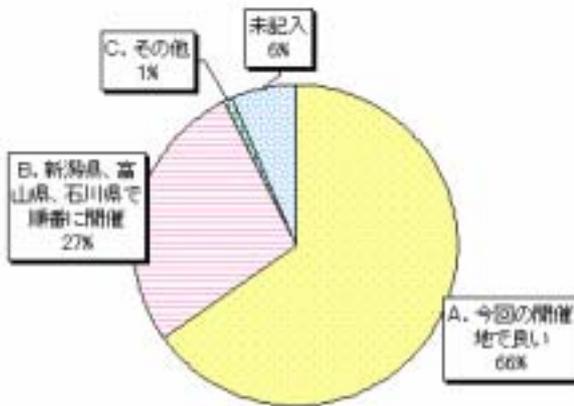


A. 今の時期が良い	93
B. その他	22
未記入	9
計	124

その他

- ・1月～2月（4）
- ・4月～5月（7）
- ・6月（5）
- ・9月（2）
- ・11月～12月（2）
- ・2月または9月（1）
- ・未記入（1）

④開催地についてどのようにお考えですか。



A. 今回の開催地で良い	81
B. 新潟県、富山県、石川県で順番に開催	34
C. その他	1
未記入	8
計	124

その他

・どこでも良い(1)

問5. この報告会の報告形式や会場設営などについての意見

回答内容	回答数(内訳)
<p>■報告時間に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> もう少し時間を長くして内容を詳しく報告できるようにしてもらいたい。 24分→30分程度 1発表は15分位が良い。 	<p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p>
<p>■報告形式に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 質疑応答は発表毎に行うほうが良い。質疑応答時間に移動していることが多い。 4テーマ毎に休憩を入れ、移動にもゆったり時間がとれて良い。 PPTで今は写真だけでなく動画も利用して欲しい。 報告テーマ毎にグループ分けをしてほしい。 テーマを絞ったディスカッションの場があった方が良い。 会場が三会場に分かれているため聞きたい発表が聞けない場合もあるのでその点を改善してほしい。 質問する時間が設けてあり良かった。 従前報告の聴講を選択できるようにしてほしい。(会場の自由な移動等) 第一会場、第二会場、第三会場を自分で選べるので良かった。 発表課題数を厳選し、会場(ホール)で開催(あまりにも空席が目立つ)。 聞きたい内容が時間的にダブっている。分野を少なくし年2回開催してほしい。 発表終了前3分前からの会話は不要。時間超過は終了合図だけで良い。 	<p>3 (官公庁: 1, 民間: 2)</p> <p>1 (官公庁)</p> <p>1 (官公庁)</p> <p>1 (官公庁)</p> <p>1 (民間)</p>
<p>■報告内容に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 小規模工事に関連した建設技術の報告をお願いしたい。(コスト削減など) 他分野の新技术発表があっても良いのでは?さまざまな分野と連携して新たな新技术のヒントになる可能性がある。 新工法の提案で参考迄にコスト面も報告して頂きたい。 年々報告発表が分かり易くなっており、大変良いと思う。 毎年新潟で開催していると新潟だけの話題(震災復旧など)の発表が多くなるのでは?輪番で開催することで、それぞれ地元の話題や企業、学校の参加増が期待できる。 調査技術について、もう少し報告例があった方が良い。 	<p>1 (官公庁)</p> <p>1 (官公庁)</p> <p>1 (官公庁)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p>
<p>■基調講演に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 基調講演は不要である。 	<p>1 (民間)</p>
<p>■会場設備に関するもの</p> <ul style="list-style-type: none"> 音質は良いが喫煙場所を分かりやすくしてほしい。 食事する場所や喫煙場所がもう少し多いと良い。 第二会場、第三会場は机があったので非常にメモをとりやすかった。 会場内をもう少し明るくしてほしい。 スクリーンの文字がぼけて見え難かった。 発表会場は同一階で出来れば最良と考えるが、今回のような2階〜3階までは分散しすぎ、せめて2〜3階にしてほしい。 画面が見やすく良い。 床が狭い。 	<p>2 (民間: 2)</p> <p>2 (民間: 2)</p> <p>1 (官公庁)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p> <p>1 (民間)</p>

問6. その他、この報告会について感じたこと

回答内容	回答数(内訳)
・ お疲れ様でした。ありがとうございました。	6 (官公庁：1, 民間：4)
・ この時期、各協会で講習会や研修会があるため多忙なためか聴講者が少ない。	4 (官公庁：1, 民間：3)
・ 会場が不便。駅から遠い。公共交通の便が良い会場を希望する。	3 (官公庁：1, 民間：2)
・ 大変有意義な報告会であった。	2 (官公庁：1, 民間：1)
・ 北陸3県で順番開催して欲しい。順番に開催することによってそれぞれの地元の課題や企業、学生の参加増加が期待出来るのではないか。	2 (官公庁：1, 民間：1)
・ 発表者によっては聞きとり難い場合があるので、ピンマイク等により鮮明に報告内容が聞き取れるような工夫が欲しい。	2 (民間：2)
・ 発注者の参加が少ない。	2 (民間：2)
・ 昼食場所は圧席が少なく注文してから出来上がるまで遅い。(大規模会場がある場合、昼食場所に連絡を入れておけば準備も品来スムーズに出来るのではないか)	1 (官公庁)
・ 悪天候の中、駐車場の確保がとても良かった。	1 (官公庁)
・ 聴講者に若い人が少ない。	1 (官公庁)
・ もっと報告会をPRすべきだと思う。	1 (民間)
・ 他のイベントでも同じ発表をしている企業があるため報告会で得るものが少ない。	1 (民間)
・ 発表者はそれぞれきちんと説明され、質問にも丁寧に答えていて良い報告会であった。	1 (民間)
・ 毎年多く発表されているが国交省で発注採用されていない。(会場での活用が少ない)	1 (民間)
・ 開発者のみに責任を負わせている。(甲、乙で育てる姿勢がない)	1 (民間)
・ 北陸道路舗装会議との違い、差別化をしてほしい。	1 (民間)
・ 各種製が何を目標してるか理解できた。	1 (民間)
・ 去年も感じましたが昼食にお弁当を販売していることが分かりませんでした。もう少し分かりやすく事前に案内が欲しい。	1 (民間)

6 . 開催状況等写真集

1) 開閉会・基調講演

開会挨拶



北陸地方整備局 企画部長 橋場克司

基調講演



新潟地方気象台 調査官 矢沢 易 氏

総評・閉会挨拶



「建設技術報告会」実行委員長 平田 五男
(北陸技術事務所長)

開閉会・基調講演 司会進行



基調講演 聴講風景



2) 技術報告

第1会場 発表状況



第1会場 司会進行状況



第2会場 発表状況



第2会場 司会進行状況



第3会場 発表状況



第3会場 司会進行状況



第1会場 聴講者質問状況



第1会場 発表者回答状況



第2会場 聴講者質問状況



第2会場 発表者回答状況



第3会場 聴講者質問状況



第3会場 発表者回答状況



第1会場 技術報告聴講風景



第1会場 発表状況（遠景）



第2会場 技術報告聴講風景



第2会場 発表状況（遠景）



第3会場 技術報告聴講風景



第3会場 発表状況（遠景）



3) その他開催状況等

運営スタッフミーティング状況



受付状況



パネル展示コーナー



アンケート投函状況



催事案内看板設置



車輛誘導状況（駐車場）

